

【令和7年度 数学科授業改善推進プラン】

数学科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・数量や図形などの基礎的な概念や原理、法則について理解する力
- ・事象を数理的に考察し表現する力
- ・数学の良さを実感し、数学を活用して考えたり判断したりする力

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中して取り組む生徒が多い。 ・文章を読み取り、数式や図、グラフなどに表すことを苦手とする生徒が見られる。 ・数式を正しく変形させることを苦手とする生徒がいる。 ・授業中に理解した内容の定着が不十分な生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中して取り組む生徒が多い。 ・計算などの基本的な知識・技能が身に付いていない生徒が少数みられる。 ・文章を読み取り、数量関係を考えたり、図や表、グラフに表したりすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験を意識した取組ができている。多くの生徒が授業に集中して取り組んでいる。 ・既習内容の理解が不十分な生徒がいる。 ・証明のような記述を苦手とする生徒がいる。
学力調査結果	<p><全国学力調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都全体と比べ、平均正答率は8ポイント、中央値は13ポイント上回る結果となった。正答数を四分位数で見ると第1, 2四分位数は上回っており、第3四分位数は同じ値となっている。そのため、基礎的・基本的な学力が定着していない生徒が少ないことが分かる。 ・観点別に見ると、特に思考力・判断力・表現力の正答率が高い傾向にある。 ・知識や技能の定着のみではなく、思考力・判断力・表現力を身に付ける授業ができていることが確認できた。 		
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や身近な例をどのような場面で活用できるか、課題をイメージする力を育む必要がある。 ・既習事項を復習する機会を設定し、理解を深め、定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の順序を意識させ、1つずつ丁寧に計算を進めさせる必要がある。 ・どのような場面で知識・技能を活用するかを考える活動を多く取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な思考時間の確保、授業の振り返り時間の確保が必要である。 ・思考力・判断力・表現力を育むための指導が中心となり基礎的な学習の反復が不十分なことがある。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディサプリなどのデジタル教材を活用し、基礎・基本の反復練習を行い、学力の向上と定着を図る。特に、スタディサプリの課題を毎週末提示することで家庭学習をする習慣が身に付くようにする。 ・自分の考えを文章や数式に表現したり、問題文を図や表を使ってイメージしたりする機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取り、適切に表現できるようにするために、ステップを踏みながら主体的に課題に取り組めるようにする。 ・定期的に復習課題に取り組み、単元の基礎・基本を確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な表現を用いて説明したり記述したりすることを通して説明力や論証力の向上を図る。 ・定期的にレポート課題を提出することで、単元の基礎・基本を確認できるようにする。 ・スタディサプリなどのデジタル教材を活用し、既習事項を復習時間に取り入れる。
指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を活用し、視覚的に理解し、イメージする力を育み、数学への興味関心を高める。 ・授業の中で、現在の学習内容と既習事項との関連性を取り上げ、復習することで、「基礎・基本」の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別クラス編成の利点を生かし、意欲的に取り組める課題の設定や、やる気を引き出す丁寧な指導を行う。 ・授業の中で、既習事項と現在の学習内容との関連性を取り上げ、復習や確認する場面を増やすことで、「基礎・基本」の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の考えを引き出したり、粘り強く考えたりできるように、既習事項の振り返りや発問の工夫、十分な時間の確保を行う。 ・関数や図形の問題ではデジタル機器を活用して、視覚的に理解できるようにしていく。 ・後期は模擬テストを行い、習熟度を考慮した問題解決の実践力を身に付けられるようにする。

評価

- ① 授業の自己評価表による評価
- ② 定期考査の観点別学習状況による評価
- ③ 単元テスト、小テスト、ワークシート、提出物による評価